

## 春季大祭祭文

これの神床に目標としてお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教△△分教会長 慎んで申し上げます

親神様の温かいふところの中でいつも明るく不自由なく暮らさせて頂き 誠に有り難うございます 私たちはかしまりものの御教えを深く味わいつゝ自由に使うことを委された心のふしん怠りなく受取り上手悟り上手の成人を心掛けながら日夜勇んでつとめさせて頂いておりますが この月の二十六日は子供可愛い上から二十五年の御寿命を縮めて教祖が扉を開かれ 爾来元の屋敷たるぢばに留まって御存命の理を以て世界救けに門出された元一日に当たりますので御本部ではこの日を記念して年毎に春の大祭をおつとめ下さいます この日の教会に於いてもゆかりある今日の上き日この理を受けて立教百六十六年の春季大祭を執り行い日頃の重なる御高恩にお応え申し上げたいと存じ一同下着を重ね足袋を重ねて拘引を覚悟の上真剣におつとめにかゝられた昔を偲び先人の心を心として只今からおつとめを陽気につとめさせて頂きます

さて私共ようぼく一同は改めて五十年に及ぶひながたの道を思い起こし立教百六十六年次の塚に向って立教の元一日”みきを神の社に差し上げます”の精神を我がものとし よふぼくであるお互い一人ひとりがおさづけの理を戴いたその日の心を忘れることなく一日々々一分一秒でも多く我が身我が家を人救けのご用の上にお使い頂けるようつとめさせて頂きませが 親神様にはこの上ともに不思議な理のお働きをお見せ下され 私たちの周りが次々に世界一列兄弟姉妹の世界観に目覚めて相互に救け合う陽気ぐらしの輪が広く大きく拡がって参りますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます